(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3886058号
(P3886058)
(45)発行日　平成19年2月28日(2007.2.28)　(24)登録日　平成18年12月1日(2006.12.1)

(51)Int.Cl.		F I		
G06F 17/24	(2006.01)	G06F	17/24	554G
G06F 17/21	(2006.01)	G06F	17/21	536

請求項の数 3　(全 8 頁)

(21)出願番号　特願平7-166816
(22)出願日　平成7年6月8日(1995.6.8)
(65)公開番号　特開平8-335218
(43)公開日　平成8年12月17日(1996.12.17)
審査請求日　平成14年5月31日(2002.5.31)

(73)特許権者　000001007
キヤノン株式会社
東京都大田区下丸子３丁目３０番２号
(74)代理人　100125254
弁理士　別役　重尚
(74)代理人　100118278
弁理士　村松　聡
(74)代理人　100138922
弁理士　後藤　夏紀
(74)代理人　100136858
弁理士　池田　浩
(74)代理人　100135633
弁理士　二宮　浩康

最終頁に続く

(54)【発明の名称】文字処理装置及びその編集方法

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
表示画面に文字群を表示する表示手段と、
前記表示画面上で文字を１文字単位で指示するカーソルを表示するカーソル表示手段と、
操作者から切取り開始の指示後に移動を指示されたカーソルの移動方向が転換したかを判断する方向転換判断手段と、
前記切取り開始が指示された時の前記カーソルの位置と、前記方向転換判断手段により前記カーソルの移動方向が転換したと判断された時の当該カーソルの移動前の位置とを記憶する位置記憶手段と、
前記カーソルの位置が、前記切取り開始が指示された時の前記カーソルの位置に戻った場合に、前記表示画面上で前記位置記憶手段に記憶されている複数の位置により囲まれる領域内に表示されている文字群を切り取る切取手段とを設けたことを特徴とする文字処理装置。
【請求項２】
前記切取手段により切り取った文字群に書式情報を付加するための書式情報付加手段をさらに設けたことを特徴とする請求項１記載の文字処理装置。
【請求項３】
表示画面に文字群を表示する表示手段を有し、文字群の編集を行う文字処理装置の編集方法において、

前記表示画面上で文字を１文字単位で指示するカーソルを表示し、
操作者から切取り開始が指示された時の前記カーソルの位置を位置メモリに記憶し、
前記切取り開始の指示後に移動を指示された前記カーソルの移動方向が転換したかを判断し、
前記カーソルの移動方向が転換したと判断された時の当該カーソルの移動前の位置を前記位置メモリに記憶し、
前記カーソルの位置が、前記切取り開始が指示された時の前記カーソルの位置に戻った場合に、前記表示画面上で前記位置メモリに記憶されている複数の位置により囲まれる領域内に表示されている文字群を切り取ることを特徴とする文字処理装置の編集方法。

【発明の詳細な説明】

【０００１】

【産業上の利用分野】

本発明は、エディタやワードプロセッサ等の文字処理装置及びその編集方法に関する。

【０００２】

【従来の技術】

従来の文字処理装置においては、文字群の切取範囲は、カーソルで切取の開始位置及び終了位置を指示することにより、指定していた。

【０００３】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上記従来の切取範囲の指定方法では、文字群をストリーム又は矩形ブロックとして切り取ることはできるが、凸形や凹形の形状に切り取ることができなかった。そのため、一旦矩形に修正した後でないと切り取れないという欠点があった。

【０００４】

本発明はこの点に着目してなされたものであり、文字群を凸形や凹形の形状でも切り取ることができる文字処理装置及びその編集方法を提供することを目的とする。

【０００５】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するため本発明は、表示画面に文字群を表示する表示手段と、前記表示画面上で文字を１文字単位で指示するカーソルを表示するカーソル表示手段と、操作者から切取り開始の指示後に移動を指示されたカーソルの移動方向が転換したかを判断する方向転換判断手段と、前記切取り開始が指示された時の前記カーソルの位置と、前記方向転換判断手段により前記カーソルの移動方向が転換したと判断された時の当該カーソルの移動前の位置とを記憶する位置記憶手段と、前記カーソルの位置が、前記切取り開始が指示された時の前記カーソルの位置に戻った場合に、前記表示画面上で前記位置記憶手段に記憶されている複数の位置により囲まれる領域内に表示されている文字群を切り取る切取手段とを設けるようにしたものである。

【０００６】

前記切取手段により切り取った文字群に書式情報を付加するための書式情報付加手段をさらに設けることが望ましい。

前記移動指示手段の指示により移動した前記カーソルの位置が、前記切取り開始が指示された時の位置と同じ位置であるか否かを判断する位置判断手段を更に有し、前記位置判断手段により同じ位置であると判断した場合、前記切取手段は文字群を切り取ることが望ましい。

【０００７】

同じ目的を達成するため本発明は、表示画面に文字群を表示する表示手段を有し、文字群の編集を行う文字処理装置の編集方法において、前記表示画面上で文字を１文字単位で指示するカーソルを表示し、操作者から切取り開始が指示された時の前記カーソルの位置を位置メモリに記憶し、前記切取り開始の指示後に移動を指示された前記カーソルの移動方向が転換したかを判断し、前記カーソルの移動方向が転換したと判断された時の当該カーソルの移動前の位置を前記位置メモリに記憶し、前記カーソルの位置が、前記切取り開

始が指示された時の前記カーソルの位置に戻った場合に、前記表示画面上で前記位置メモリに記憶されている複数の位置により囲まれる領域内に表示されている文字群を切り取るようにしたものである。

【０００８】

【作用】

請求項１の文字処理装置又は請求項４の編集方法によれば、表示画面上で文字を１文字単位で指示するカーソルが表示され、操作者から切取り開始が指示された時の前記カーソルの位置が位置メモリに記憶され、前記切取り開始の指示後に移動を指示された前記カーソルの移動方向が転換したかが判断され、前記カーソルの移動方向が転換したと判断された時の当該カーソルの移動前の位置が前記位置メモリに記憶され、前記カーソルの位置が、前記切取り開始が指示された時の前記カーソルの位置に戻った場合に、前記表示画面上で前記位置メモリに記憶されている複数の位置により囲まれる領域内に表示されている文字群が切り取られる。

【０００９】

請求項２の文字処理装置によれば、切り取った文字群の書式情報が付加される。

請求項３の文字処理装置によれば、移動指示手段の指示により移動したカーソルの位置が、切取り開始が指示された時の位置と同じ位置であるか否かが位置判断手段により判断され、位置判断手段により同じ位置であると判断した場合、切取手段により文字群が切り取られる。

【００１０】

【実施例】

以下本発明の実施例を図面を参照して説明する。

【００１１】

図１は、本発明の一実施例にかかる文字処理装置の構成を示すブロック図である。この装置は、以下に述べる構成要素と接続され、当該装置全体の制御を行うＣＰＵ１と、文字入力やカーソル移動、文字群の切取、貼付のためのキーを有するキーボード２と、例えば図２に示すようにカーソル９や文字が表示画面１０に表示されるＣＲＴ（Cathode Ray Tube）３と、ＣＰＵ１で実行されるプログラムやフォントデータを格納するＲＯＭ４と、種々の目的のために使用されるＲＡＭ５とを備えている。ＲＡＭ５は、テキストを格納するためのテキストメモリ部５ａと、テキストの一部を切り取った領域を格納する切取メモリ部５ｂと、数値情報を一時的に格納するレジスタ部５ｃと、カーソル位置座標群を記憶するカーソル座標記憶部５ｄとを有する。

【００１２】

切取メモリ部５ｂは、図３に示すように書式情報記憶部と文字データ記憶部の２つの部分からなり、書式情報記憶部には、文字サイズ、書体、文字ピッチ、行ピッチ、タブ桁等の情報が格納される。文字データ記憶部には、切り取った文字群が順に格納される。

【００１３】

次に図４及び５を参照して本装置の動作を説明する。

【００１４】

まず、テキストメモリ部５ａには文字が格納されているものとする。ＣＲＴ３の表示画面１０には図２に示すようにカタカナ、平かな、アルファベットの文字が入力表示されている。ここではアルファベットの文字群の切取、すなわち、図２の切取りエリア１１の領域を切り取る場合について説明する。

【００１５】

アルファベットの文字群を切り取る際にはまず、カーソル９を文字「Ａ」に位置させ、キーボード２上の切取開始キーを操作することによって切取開始プログラム（図４，５）が起動される。

【００１６】

まず、ステップＳ１では、カーソル９の現在の位置、即ち文字「Ａ」の座標をカーソル座標メモリ部５ｄの先頭Ｘ１、Ｙ１に記憶させる。然る後、キーボード２のカーソル移動キ

ーが操作されるまでプログラムはアイドル状態を保ち（ステップＳ２）、カーソル移動キーが操作されるとカーソル９は移動し、その位置を更新する（ステップＳ３）。カーソル位置を更新する毎に最初の座標に戻ったか否か判別する（ステップＳ４）。最初の座標だった場合は切取りエリア１１が囲まれて領域が確定したわけで、その文字群を切取りメモリ部５ｂに格納する（ステップＳ７）。

【００１７】

ステップＳ４に戻ってカーソル位置が最初の座標でない場合は、カーソルが方向転換したか否か判別する。図２で、カーソルが文字「Ｂ」「Ｃ」と移動してきて文字「Ｆ」に達したとき、カーソルは右方向から下方向に進路を変えたわけで、その方向を転換したか否かを判別する（ステップＳ５）。方向転換していない場合は再びカーソル移動キー入力待ちに戻る。カーソル方向転換した場合は移動する直前のカーソル位置、図２の例では文字「Ｃ」の位置をＲＡＭ５のカーソル座標メモリ部５ｄに記憶させる（ステップＳ６）。カーソル座標メモリ部５ｄは順次下のエリアを使用する。

【００１８】

カーソル９が一回りして出発点に戻ってきた時、カーソル座標メモリ部５ｄにはカーソルが通った軌跡のうち方向転換したＸＹ座標が記憶されている。図２の例では、文字「Ａ」「Ｃ」「Ｉ」「Ｌ」「Ｒ」「Ｍ」の文字位置に相当する。これらの位置の座標を元にテキストメモリ５ａから、切取りエリア１１の文字群を取り出し、切取メモリ部５ｂのうちの文字データ部分に格納する（ステップＳ７）。このときの切取メモリ部５ｂの文字データ記憶部には図３に示すように文字「Ａ」から文字「Ｒ」までのアルファベットが格納される。

【００１９】

然る後、切り取った文字群の書式を設定するため、図６に示した書式情報設定画面を表示させる（ステップＳ８）。その後、キー入力待ち状態を維持し（ステップＳ９）、入力したキーに応じて２通りに分岐する。もし数値が入力された場合、レジスタ部５ｃに一旦格納し（ステップＳ１１）、然る後にその数値をカッコ内に表示する（ステップＳ１２）。その後、キー入力待ちに戻る。

【００２０】

一方ステップＳ９での入力が改行キーだった場合はレジスタ部５ｃの内容を、切取りメモリ部５ｂの書式情報記憶部のカーソル位置に該当するメモリ部分（図６の状態ではカーソル９が文字サイズの欄にあるので、文字サイズのメモリ部分）に格納する。更に表示カーソルを下降させる（ステップＳ１０）。

【００２１】

最後のタブ桁まで入力されたか否か判別し、まだであればキー入力待ちに戻り、全て入力されれば切取作業が終了する（ステップＳ１３）。

【００２２】

なお、図７は切り取った文字群を貼付エリア１２に貼り付けた場合の表示例を示す。

【００２３】

以上のように本実施例では、カーソルが移動した軌跡によって囲まれた領域内の文字群を切り取るようにしたので、凹形、凸形のような矩形以外の複雑な形状で文字群を切り取ることができる。

【００２４】

なお、上述した実施例ではカーソルによって文字の位置を指示するようにしたが、これに限るものではなく、表示画面上の位置を指示できるものであればよい。

【００２５】

【発明の効果】

以上詳述したように本発明によれば、表示画面に文字群が表示され、表示画面上で文字を１文字単位で指示するカーソルが表示され、操作者から切取り開始が指示された時のカーソルの位置が位置メモリに記憶され、切取り開始の指示後に移動を指示されたカーソルの移動方向が転換したかが判断され、カーソルの移動方向が転換したと判断された時のカ

ーソルの移動前の位置が位置メモリに記憶され、カーソルの位置が、切取り開始が指示された時のカーソルの位置に戻った場合に、表示画面上で位置メモリに記憶されている複数の位置により囲まれる領域内に表示されている文字群が切り取られるので、凹形や凸形のような矩形以外の複雑な形状の文字群を、カーソルによる簡単な指定操作により切り取ることができる。

【図面の簡単な説明】

【図１】本発明の一実施例にかかる文字処理装置の構成を示すブロック図である。

【図２】文字群の表示例を示す図である。

【図３】切り取った文字群に対応する情報を記憶する部分の構成を示す図である。

【図４】文字群の切取処理の手順を示すフローチャートである。

【図５】文字群の切取処理の手順を示すフローチャートである。

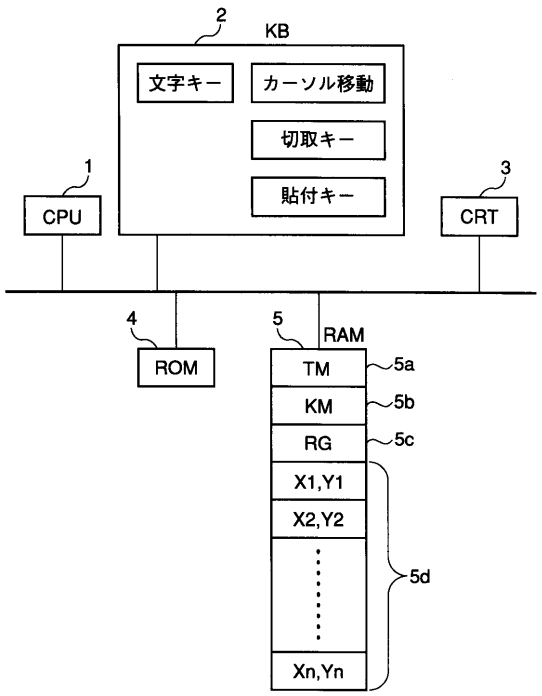
【図６】書式情報設定画面を示す図である。

【図７】切り取った文字群を貼り付けた状態の一例を示す図である。

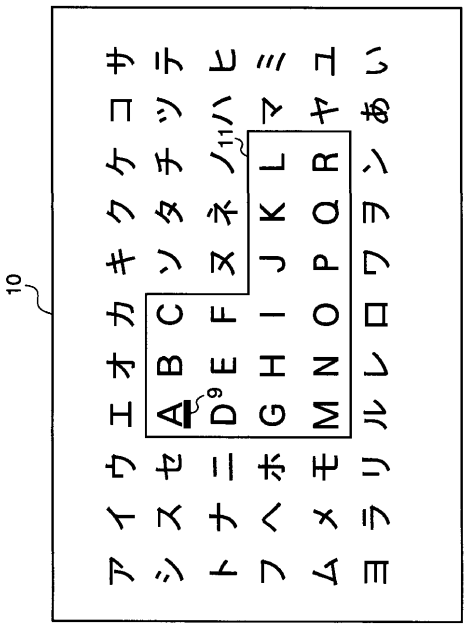
【符号の説明】

１　ＣＰＵ
２　キーボード
３　ＣＲＴ
４　ＲＯＭ
５　ＲＡＭ
５ａ　テキストメモリ部
５ｂ　切取メモリ部
５ｃ　レジスタ部
５ｄ　カーソル座標メモリ部

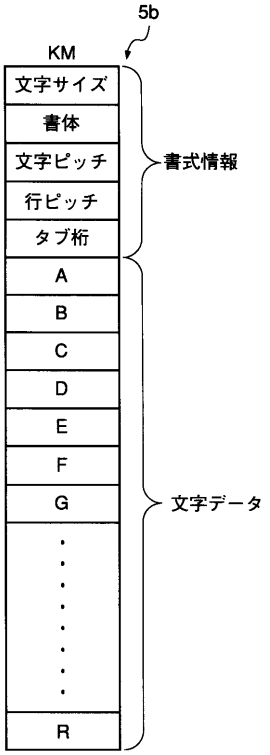
【図１】



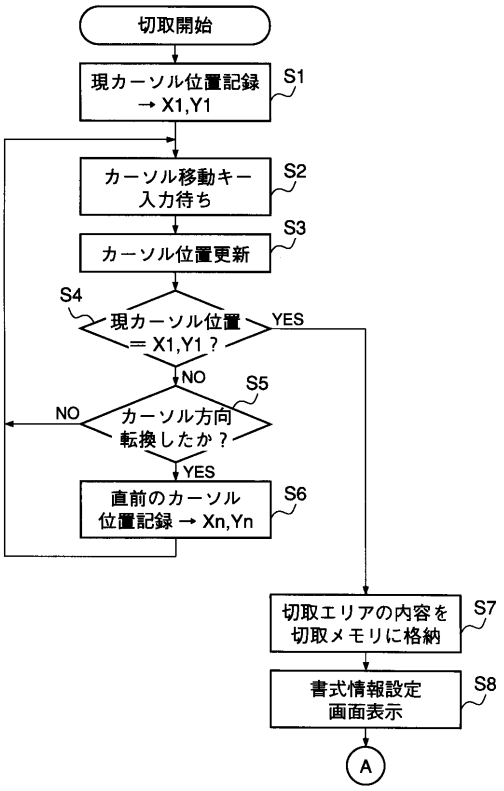
【図２】



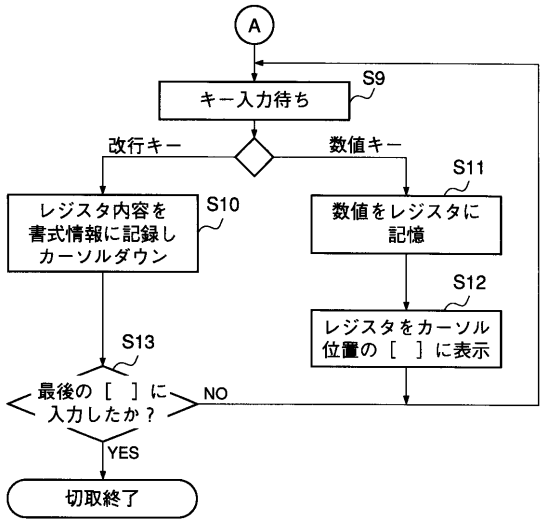
【図３】



【図４】



【図５】



【図６】

書式情報設定画面

文字サイズ ＝ [9] ポイント

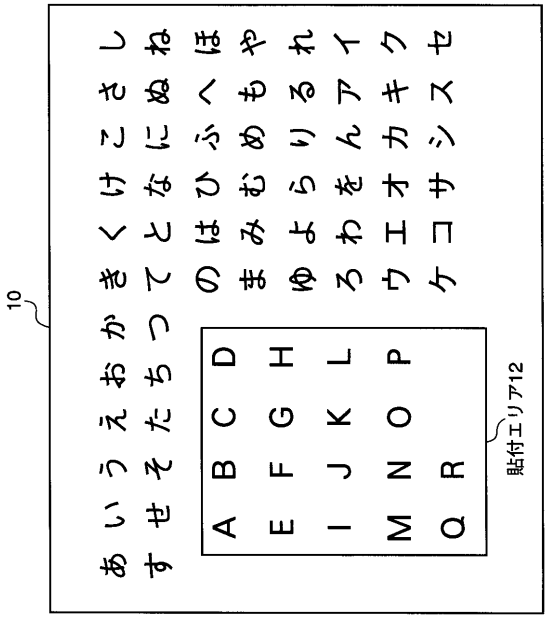
書体 ＝ [ ] 1 明朝 2 ゴシック

文字ピッチ ＝ [ ] mm

行ピッチ ＝ [ ] mm

タブ桁 ＝ [ ] 桁

【図７】


10
あいうえおかきくけこさしすせそたちつてとなにぬねほのはひふへほまみむめもやゆよらるれろわをんアイクウエオカキクケコサシスセ
A B C D
E F G H
I J K L
M N O P
Q R
貼付エリア12

フロントページの続き

(72)発明者　杉谷　和宣
東京都大田区下丸子３丁目３０番２号　キヤノン株式会社内

審査官　長　由紀子

(56)参考文献　特開平０６－３３２６１１（ＪＰ，Ａ）
特開平０８－２２１１９９（ＪＰ，Ａ）
特開平０５－１５１２０３（ＪＰ，Ａ）
特開昭５８－１４２３９１（ＪＰ，Ａ）
ＯＡＳＹＳ　３００　Ａ　操作マニュアル　３（文書や辞書を管理する），富士通株式会社，１９９２年　1月３１日，第3巻　第1版，110-112

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
G06F 17/21　　-26